

【表紙】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 北海道財務局長 |
| 【提出日】 | 平成27年11月13日 |
| 【四半期会計期間】 | 第62期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日） |
| 【会社名】 | S Dエンターテイメント株式会社 |
| 【英訳名】 | SD ENTERTAINMENT, Inc. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 河野 正 |
| 【本店の所在の場所】 | 札幌市中央区南3条西1丁目8番地 |
| 【電話番号】 | 011-241-3951 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役 吉住 実 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 札幌市中央区南3条西1丁目8番地 |
| 【電話番号】 | 011-241-3951 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役 吉住 実 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第62期 第2四半期連結 累計期間 |
|--------------------------|------|---------------------------|
| 会計期間 | | 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日 |
| 売上高 | (千円) | 3,963,084 |
| 経常損失() | (千円) | 17,046 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失 () | (千円) | 79,190 |
| 四半期包括利益 | (千円) | 82,845 |
| 純資産額 | (千円) | 2,152,214 |
| 総資産額 | (千円) | 10,664,215 |
| 1株当たり四半期純損失金額() (円) | | 9.15 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額 | (円) | - |
| 自己資本比率 | (%) | 20.1 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | (千円) | 166,600 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | (千円) | 143,017 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | (千円) | 350,598 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | (千円) | 1,616,395 |

| 回次 | | 第62期 第2四半期連結 会計期間 |
|----------------------|--|---------------------------|
| 会計期間 | | 自平成27年7月1日 至平成27年9月30日 |
| 1株当たり四半期純損失金額() (円) | | 1.58 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第1四半期連結累計期間に新たに連結子会社を取得したことに伴い、第62期第1四半期連結累計期間から初めて四半期連結財務諸表を作成しております。
4. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

(その他)

エムシーエー株式会社及びその子会社3社(ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社)、並びに株式会社フォーユー及びその子会社(株式会社フィリア)を連結子会社といたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかな景気の回復基調が続いているものの、中国を始めとするアジア新興国等の景気の下振れなど、不安定な要素も抱えつつ推移しました。

このような環境の下、「健康グループ」の経営理念であり、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう（KENKOU）』をつくり、『えがお（EGAO）』と『かがやき（KAGAYAKI）』と『ありがとう（ARIGATOU）』を創造し続け、世界中に広めます。」の経営理念のもと、経営の効率化を図り、一層の収益力の強化に取り組んでまいりました。

前期はコスト削減・体質改善を中心とする「フェーズ1」を推し進め成果を上げほぼ終了し、今期は売上拡大・成長を主眼とする施策を推進する「フェーズ2」へと移行、セグメント横断的な施策として、再来場促進を狙いとしたスマホ用「ディノスアプリ」を最大限に活用するなど、顧客基盤強化施策を実施したほか、ポイントカード会員システムを一新し、従来できていなかったCRM（Customer Relationship Management）の強化推進を進めるべく準備に入っております。

また、電力料金値上げによる負担増を抑えるための施策として、従来より北海道内の自社ビルである大型複合アミューズメント施設を中心に、インバーター制御盤の交換や電球のLED化を進めてまいりましたが、今期も引き続き、一部店舗に省エネのための設備投資を順次実施しており、コスト削減に努めております。

平成27年5月12日に開示したとおり、エムシーツー株式会社の発行済全株式を健康コーポレーションから譲受けしたことに伴い、健康コーポレーション以外からのコールセンター事業などの通信事業、事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、ソフトウェア販売事業及び介護事業を営むエムシーツー株式会社及びその子会社3社を譲り受けしたこと、加えて介護事業と通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社を連結子会社にしたことで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図りたいと計画しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は39億63百万円、営業利益は79百万円、経常損失は17百万円となりました。ゲーム店舗1店舗閉店により、固定資産除却損等の特別損失を39百万円計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は79百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における売上高をセグメント別に示すと次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) | 前年同四半期比(%) |
|---------------|---|------------|
| GAME事業部(千円) | 1,151,293 | - |
| フィットネス事業部(千円) | 1,115,073 | - |
| ボウリング事業部(千円) | 553,921 | - |
| 施設管理事業部(千円) | 615,787 | - |
| (シネマ)(千円) | (459,153) | (-) |
| (その他)(千円) | (156,633) | (-) |
| その他(千円) | 527,008 | - |
| 合計(千円) | 3,963,084 | - |

(注)1.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2.施設管理事業部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3.施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

4.当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(G A M E 事業部)

G A M E 事業部につきましては、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」を出店しました。ビデオゲームの「鉄拳7」、「Wonderland Wars」などのヒット作に恵まれたほか、閑散期にクーポンを配布して再来場を促しました。名古屋市内のゲーム店舗1店舗の閉鎖や一部改装のために休業がありましたが、シルバーウィーク期間中は既存店が堅調に稼働したことなどにより、売上高は11億51百万円となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、ホットヨガのハーティノルベサ店を加圧スタジオのB L O O M S に業態転換しました。その他、オリジナル物販商品のラインナップを拡大したこと、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどのK P I の改善策の実施などにより、売上高は11億15百万円となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、前期から推進しているL T B (ボウリング教室)を強化し、トーナメント、リーグへ繋げ顧客の拡大を図りました。また、前期好評を得たD J で場内を盛り上げ、アルコール販売強化を目的としたイベントガール投入を継続し、「パーティ・ボウリング」を推進したことや新しいメニューの追加、シャンパン等高額商品の販売も試みました。さらには、マスキング広告の売り込みにも着手したことなどにより、売上高は5億53百万円となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」部門において、「ジュラシック・ワールド」、「バケモノの子」及び「H E R O 」等ヒット作を例年よりも多く上映できました。夏休み映画でスタンプラリーを実施したほか、一部地域では競合店の撤退等もあり、売上高は4億59百万円となりました。「その他」に分類している賃貸施設管理部門においては、新たに室蘭の店舗の遊休スペースを他社のカラオケ店に賃貸し(平成27年5月)、売上高は1億56百万円となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、利用料金の改定、新しい飲食メニューの導入、スキャナー導入などのビジネス機能の強化や各種企画開催等の施策を実施しました。また、オンラインゲームの新タイトル導入によるコンテンツの強化、それに合わせたゲームパック料金サービスを開始しました。

また、グループ会社による事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、通信事業、訪問介護事業、介護事業及び通信テレマーケティング事業の運営により、売上高は5億27百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、16億16百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1億66百万円となりました。これは主に、未払消費税等の減少額が95百万円及び税金等調整前四半期純損失が58百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億26百万円あったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、1億43百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1億55百万円ありましたが、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入が2億59百万円及び有形固定資産の売却による収入が15百万円あったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、3億50百万円となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出が5億80百万円、社債の償還による支出が4億69百万円及び長期借入金の返済による支出が4億9百万円ありましたが、長期借入れによる収入が15億円及び短期借入れによる収入が3億30百万円あったことなどによるものであります。

なお、当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末及び前第2四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

(3) 財政状態の分析

（資産、負債及び純資産の状況）

当第2四半期連結累計期間末における総資産は106億64百万円、負債は85億12百万円、純資産は21億52百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末との比較分析は行っておりません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 28,000,000 |
| 計 | 28,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|------------------------------|------------------------------------|------------|
| 普通株式 | 8,757,000 | 8,757,000 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数 100株 |
| 計 | 8,757,000 | 8,757,000 | - | - |

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|---------------------------------|-----------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成27年7月1日～ 平成27年9月30日 (注) | 30,000 | 8,757,000 | 9,777 | 148,885 | 9,777 | 1,177,880 |

(注)新株予約権の行使によるものであります。

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%) |
|------------------------------|--------------------|---------------|--------------------------------|
| 健康コーポレーション株式会社 | 東京都新宿区北新宿2丁目21番1号 | 5,340 | 60.98 |
| 株式会社北洋銀行 | 札幌市中央区大通西3丁目7 | 424 | 4.84 |
| 河野 正 | 東京都新宿区 | 220 | 2.51 |
| マイルストーン キャピタル マネジメ ント株式会社 | 東京都千代田区大手町2丁目6-2 | 92 | 1.06 |
| 中道リース株式会社 | 札幌市中央区北一条東3丁目3番地 | 74 | 0.85 |
| SDエンターテイメント従業員持株会 | 札幌市中央区南三条西1丁目8番地 | 56 | 0.65 |
| オリックス株式会社 | 東京都港区浜松町2丁目4-1 | 40 | 0.46 |
| 株式会社つうけん | 札幌市白石区本通19丁目南6-8 | 30 | 0.35 |
| 日本生命保険相互会社 | 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 | 24 | 0.27 |
| 三和サ - ビス株式会社 | 札幌市西区発寒十二条12丁目1番5号 | 22 | 0.26 |
| 計 | - | 6,324 | 72.22 |

(注) 上記のほか、自己株式が58千株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 58,900 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 8,697,200 | 86,972 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 900 | - | - |
| 発行済株式総数 | 8,757,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 86,972 | - |

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有 株式数(株) | 他人名義所有 株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%) |
|---------------------|----------------------|------------------|------------------|-----------------|--------------------------------|
| SDエンターテイメント 株式会社 | 札幌市中央区南3条 西1丁目8番地 | 58,900 | - | 58,900 | 0.67 |
| 計 | - | 58,900 | - | 58,900 | 0.67 |

(注) 上記のほか、単元未満株式88株を所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

当社は、第1四半期連結会計期間に新たに連結子会社を取得したことに伴い、第1四半期連結会計期間から初めて四半期連結財務諸表を作成しております。そのため、比較情報は記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年9月30日)

| 資産の部 | |
|---------------|------------|
| 流動資産 | |
| 現金及び預金 | 1,616,395 |
| 売掛金 | 382,169 |
| 商品及び製品 | 41,633 |
| 原材料及び貯蔵品 | 84,672 |
| その他 | 232,789 |
| 貸倒引当金 | 2,321 |
| 流動資産合計 | 2,355,338 |
| 固定資産 | |
| 有形固定資産 | |
| 建物及び構築物(純額) | 3,030,868 |
| 土地 | 2,670,817 |
| その他(純額) | 866,016 |
| 有形固定資産合計 | 6,567,702 |
| 無形固定資産 | |
| のれん | 176,325 |
| その他 | 51,150 |
| 無形固定資産合計 | 227,475 |
| 投資その他の資産 | |
| 差入保証金 | 1,166,262 |
| その他 | 271,912 |
| 投資その他の資産合計 | 1,438,174 |
| 固定資産合計 | 8,233,353 |
| 繰延資産 | 75,523 |
| 資産合計 | 10,664,215 |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 買掛金 | 263,777 |
| 短期借入金 | 10,270 |
| 1年内償還予定の社債 | 862,800 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 769,294 |
| 未払法人税等 | 19,998 |
| ポイント引当金 | 9,050 |
| その他 | 1,404,792 |
| 流動負債合計 | 3,339,983 |
| 固定負債 | |
| 社債 | 2,429,600 |
| 長期借入金 | 2,059,351 |
| 資産除去債務 | 146,074 |
| その他 | 536,991 |
| 固定負債合計 | 5,172,017 |
| 負債合計 | 8,512,000 |

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成27年9月30日)

| 純資産の部 | |
|---------------|------------|
| 株主資本 | |
| 資本金 | 148,885 |
| 資本剰余金 | 1,855,845 |
| 利益剰余金 | 148,997 |
| 自己株式 | 13,288 |
| 株主資本合計 | 2,140,440 |
| その他の包括利益累計額 | |
| その他有価証券評価差額金 | 6,499 |
| その他の包括利益累計額合計 | 6,499 |
| 新株予約権 | 5,275 |
| 純資産合計 | 2,152,214 |
| 負債純資産合計 | 10,664,215 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日) |
|----------------------|---|
| 売上高 | 3,963,084 |
| 売上原価 | 836,456 |
| 売上総利益 | 3,126,628 |
| 販売費及び一般管理費 | |
| 給料 | 788,359 |
| 退職給付費用 | 10,507 |
| 地代家賃 | 579,582 |
| その他 | 1,668,942 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 3,047,391 |
| 営業利益 | 79,236 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 1,241 |
| 受取配当金 | 349 |
| 受取保険金 | 3,831 |
| その他 | 1,999 |
| 営業外収益合計 | 7,421 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 38,359 |
| その他 | 65,345 |
| 営業外費用合計 | 103,705 |
| 経常損失 () | 17,046 |
| 特別利益 | |
| 投資有価証券売却益 | 2,672 |
| 受取和解金 | 4,000 |
| 新株予約権戻入益 | 244 |
| 特別利益合計 | 6,916 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 38,367 |
| 減損損失 | 9,673 |
| 店舗閉鎖損失 | 655 |
| 特別損失合計 | 48,696 |
| 税金等調整前四半期純損失 () | 58,826 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 14,978 |
| 法人税等調整額 | 5,385 |
| 法人税等合計 | 20,364 |
| 四半期純損失 () | 79,190 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失 () | 79,190 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) |
|-----------------|---|
| 四半期純損失() | 79,190 |
| その他の包括利益 | |
| その他有価証券評価差額金 | 3,655 |
| その他の包括利益合計 | 3,655 |
| 四半期包括利益 | 82,845 |
| (内訳) | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 82,845 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) |
|--------------------------|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前四半期純損失() | 58,826 |
| 減価償却費 | 326,415 |
| のれん償却額 | 5,951 |
| 減損損失 | 9,673 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 95 |
| ポイント引当金の増減額(は減少) | 300 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 12,757 |
| 新株予約権戻入益 | 244 |
| 受取利息及び受取配当金 | 1,591 |
| 支払利息 | 38,359 |
| 社債発行費償却 | 10,131 |
| 有形固定資産売却損益(は益) | 605 |
| 有形固定資産除却損 | 56,667 |
| 投資有価証券売却損益(は益) | 2,672 |
| 受取和解金 | 4,000 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 40,574 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 21,753 |
| 未収入金の増減額(は増加) | 5,867 |
| その他の資産の増減額(は増加) | 29,616 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 26,635 |
| 未払消費税等の増減額(は減少) | 95,687 |
| 未払金及び未払費用の増減額(は減少) | 45,419 |
| その他の負債の増減額(は減少) | 42,393 |
| 小計 | 220,758 |
| 利息及び配当金の受取額 | 407 |
| 利息の支払額 | 35,902 |
| 和解金の受取額 | 4,000 |
| 事業構造改善費用 | 891 |
| 法人税等の支払額 | 21,771 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 166,600 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期貸付金の回収による収入 | 12,030 |
| 長期貸付金の回収による収入 | 11,853 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入 | 259,880 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | 2,511 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 155,142 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 15,594 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 834 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 15,009 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 4,024 |
| 差入保証金の差入による支出 | 21,686 |
| 差入保証金の回収による収入 | 12,848 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 143,017 |

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
 (自平成27年4月1日
 至平成27年9月30日)

| | |
|-----------------------|-----------|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入れによる収入 | 330,000 |
| 短期借入金の返済による支出 | 580,000 |
| 長期借入れによる収入 | 1,500,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 409,671 |
| 社債の発行による収入 | 193,081 |
| 社債の償還による支出 | 469,400 |
| 新株予約権の行使による株式の発行による収入 | 98,828 |
| 長期末払金の返済による支出 | 72,365 |
| リース債務の返済による支出 | 142,057 |
| 配当金の支払額 | 56,977 |
| 連結子会社の旧株主に対する配当金の支払額 | 40,840 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 350,598 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 660,216 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 956,179 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1,616,395 |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、新たに取得したエムシーツー株式会社及びその子会社3社(ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社)を連結の範囲に含め、四半期連結財務諸表を作成しております。

第2四半期連結会計期間において、新たに取得した株式会社フォーユー及びその子会社(株式会社フィリア)を連結の範囲に含め、四半期連結財務諸表を作成しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)を適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

| | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日) |
|-----------|---|
| 現金及び預金勘定 | 1,616,395千円 |
| 現金及び現金同等物 | 1,616,395 |

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 平成27年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 57,232 | 13.4 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月30日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|---------------------------|-------------|---------------|--------------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-------------------------------|
| | GAME 事業部 | フィットネ ス事業部 | ボウリン グ事業部 | 施設管理 事業部 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 1,151,293 | 1,115,073 | 553,921 | 615,787 | 3,436,076 | 527,008 | 3,963,084 | - | 3,963,084 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 1,151,293 | 1,115,073 | 553,921 | 615,787 | 3,436,076 | 527,008 | 3,963,084 | - | 3,963,084 |
| セグメント利益 | 68,542 | 121,777 | 40,005 | 78,563 | 308,889 | 21,419 | 330,309 | 251,072 | 79,236 |

(注)1. 「その他」の内容は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「カフェ事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 251,072千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|------|-------------|---------------|--------------|-------------|-------|-----|-------|-------|
| | GAME 事業部 | フィットネ ス事業部 | ボウリン グ事業部 | 施設管理 事業部 | 計 | | | |
| 減損損失 | - | - | - | 9,673 | 9,673 | - | - | 9,673 |

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、エムシーツー株式会社の全株式を取得し、同社及び同社の子会社3社を連結子会社にしたことにより、155,254千円増加しております。

また、株式会社フォーユーの全株式を取得し、同社及び同社の子会社を連結子会社にしたことにより、25,937千円増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社フォーユー
 事業の内容 介護事業及び通信事業等

(2) 企業結合を行った主な理由

介護事業及び通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社1社を取得することで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図るため。

(3) 企業結合日

平成27年7月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

結合後の企業名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として全株式を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成27年7月1日から平成27年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

| | | |
|-------|----|----------|
| 取得の対価 | 現金 | 60,000千円 |
| 取得原価 | | 60,000 |

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

25,937千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される、将来の収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、以下のとおりであります。

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) |
|----------------------------------|---|
| 1株当たり四半期純損失金額() | 9円15銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円) | 79,190 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円) | 79,190 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 8,654,678 |

(注) 1. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

S Dエンターテイメント株式会社
取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 水野 秀樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているS Dエンターテイメント株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、S Dエンターテイメント株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。